

報道関係者 各位

第42回人文機構シンポジウム 開催のお知らせ

「デジタル・ヒューマニティーズが拓く 人文学の未来」

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（東京都港区）は、このたび広く一般の方に向けたシンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズが拓く人文学の未来」を開催します。

令和6（2024）年7月27日（土）、国際日本文化研究センター（日文研・京都府京都市）及びオンラインにて、「デジタル・ヒューマニティーズが拓く人文学の未来」をテーマに、韓国、ドイツ、日本のデジタル・ヒューマニティーズ（DH）研究者が講演・討論を行います。（参加無料・事前申込制）

本シンポジウムは、日文研が運営する「国際日本研究」コンソーシアムの加盟研究機関や日文研学術交流協定校の研究者による報告と鼎談により、みなさまにも馴染みのある人文学、その未来をDHで拓く試みです。

また今回は、7月26日～28日にかけて、日文研を会場にしたDH関連のイベントが複数開催されます。その他のイベントについても取材いただけるものがありますので、お気軽にお問い合わせください。

● 開催概要

第42回人文機構シンポジウム

「デジタル・ヒューマニティーズが拓く人文学の未来」

日時：2024年7月27日（土）13：00～17：00

会場：国際日本文化研究センター 講堂

（京都府京都市西京区）及びオンライン（Zoom ウェビナー）

定員：会場 300名／オンライン 500名

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

共催：高麗大学校文科大学、Digital-HUSS コンソーシアム、
「国際日本研究」コンソーシアム

後援：文部科学省

申込方法：下記 Web フォームにて7月24日（水）17時まで受付中

<https://submit.jotform.com/241551833430450>



人間文化研究機構ウェブサイト
<https://www.nihu.jp/ja/event/symposium/42>



Press Release

● 主催者紹介

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称：人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関（国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館・国立国語研究所・国際日本文化研究センター・総合地球環境学研究所・国立民族学博物館）で構成されています。人文機構は、機構内の機関や機構外の大学等をつなぎ、人間文化研究に関する唯一の大学共同利用機関法人として、人間文化に関わる総合的学術研究・発信に取り組んでいます。

● プログラム※日韓同時通訳あり ※手話通訳あり

13:00 **開会挨拶** 木部 暢子（人間文化研究機構 機構長）

13:05 **趣旨説明** 井上 章一（国際日本文化研究センター 所長）

13:20 **基調講演** 金 俊淵（高麗大学校 教授）（韓国語）

Consideration of the Direction of Digital Humanities in Literature Research
（文学研究から見たデジタルヒューマニティーズの行方）

< 休憩 >

14:40 **発表 1** 永井 正勝（人間文化研究機構 特任教授／国立民族学博物館）（日本語）

人文学の資料をデジタル世界に乗せて活用する—人文学からみた DH の魅力—

15:20 **発表 2** ハラルド・クマレ（ドイツ日本研究所 主任研究員）（日本語）

認識的徳の観点から見た日本の科学インフラ事例研究で得られた知見—

< 休憩 >

16:20 **ラウンドテーブル・ディスカッション** 登壇者全員による鼎談

総合司会：関野 樹（国際日本文化研究センター 教授）

17:00 閉会

Press Release

● 登壇者紹介（※登壇順）

<p>金 俊淵 (Kim Joonyoun)</p> <ul style="list-style-type: none">• Ph.D. in Chinese Literature, Seoul National University• Professor / Department of Chinese Language & Literature, Korea University• Premodern Chinese Poetry, East Asian Studies• Cognitive Poetics, Literary Geography, Digital Humanities• Associate Dean of College of Liberal Arts (2017-2018)• Head of Graduate School of East Asian Studies (2021-2023)• Director of BK21 FOUR R&E Center for East Asian Studies (2021-Present)	
<p>永井 正勝 (ながい まさかつ)</p> <p>専門は古代エジプト言語学、デジタル・ヒューマニティーズ。博士（言語学）。古代エジプトの資料をデジタル世界に乗せて分析・表現することに関心を持ち、「ヒエラティック古書体学』データベース」を構築。著書に『必携入門ヒエログリフー基礎から学ぶ古代エジプト』などがある。日本オリエント学会奨励賞、情報処理学会山下記念研究賞などを受賞。</p>	
<p>ハラルド・クマレ (Harald Kümmerle)</p> <p>ドイツ・アウクスブルク出身。理学修士（ミュンヘン工科大学、数学）、文学修士（慶應義塾大学、日本語教育学）、文学博士（マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク、日本学）。ドイツ日本研究所で主任研究員として勤務。専門分野は科学史、科学技術社会論、デジタル・ヒューマニティーズ。</p>	

Press Release

● 本シンポジウムの趣旨

当機構では、大学や多様な研究組織とも連携しながら、人間文化に係る最新の研究成果をテーマとした「人文機構シンポジウム」を毎年度開催しています。人文機構が持つ資料や研究成果を広く社会に公開・還元するとともに、人間文化に関心をもつ研究者との交流と相互理解を促進する場となっています。

第 42 回となる今回は、「デジタル・ヒューマニティーズが拓く人文学の未来」をテーマに、韓国、ドイツ、日本の DH 研究者が講演・討論を行います。

趣旨説明

デジタル・ヒューマニティーズ (DH) とは、情報学を背景とするデジタル技術を人文学に応用する手法のことである。人間文化研究機構では、DH は他分野の研究者が新たな研究領域を共創する場であり、また次の世代への知を創り出す基盤ともなると考えて、その推進を重要課題としている。

今回、日文研が「国際日本研究」コンソーシアムの研究者ネットワークを活用して開催する本シンポジウムは、まず DH 分野の先駆である韓国からの現況紹介を受け、機構、上記コンソーシアム加盟研究機関、日文研学術交流協定校、それぞれ所属の研究者による報告と続き、最後に鼎談へと進む。

デジタル環境の特性を活かし組織、国・地域、研究分野、などの壁をこえる連携や技術革新がテーマとなろう。市井の人にも馴染みある学問である人文学、その人文学の未来を DH で拓くという知的興奮を味わっていただきたい。

● メディア取材について

シンポジウム当日 (7月27日) の取材については **7月23日 (火) までに** 下記担当宛にお気軽にお問い合わせください。

本件に関する問い合わせ先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	TEL 03-6402-9234, 9343
本部事務局研究企画課 広報・社会連携係	FAX 03-6402-9240
担当: 木村・松浦	E-mail koho@nihu.jp